平成27年度　ＦＤ活動報告　　生命環境科学域　自然科学類

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

自然科学類ではこれまでの活動を踏まえて、下記の項目をH27年度も継続して実施した。

(1) シラバスの整理とウェブ公開
(2) 専門科目等の開講日などを一部変更した。
(3) ゲストプロフェッサーを含めた、国内外の研究者の研究発表を学生が聴講する機会を作った。
(4) 科学英語教育を専門とする教員による特別授業
(5) 学期ごとの単位修得状況の把握と保証人への連絡および学生に対する個別指導の実施
(6) カリキュラム単位での教科書情報の整理／新入生への教科書事前販売（前期必修科目）の実施

上記以外に本年度に行った重要事項としては以下の２項目がある。

(7) 各種ポリシー（AP, DP, CP）の見直し並びに原案作成作業
(8) 研究倫理に関わる規程や新共通科目についての学内の検討状況の把握と連絡・調整。

２　ピア授業参観実施状況

期間	被参観授業数	参観者数	特記事項
前期			
後期			
年度合計			

３　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル等）	種別	参加者数
2015. 5.19	「研究公正の推進と責任ある研究者の養成」 講師：中村征樹　氏	FDセミナー	全学で101名、自然科学類12名
2015. 9.2	「あたまの中の評価基準を「みえる化」する方法-ルーブリックを用いたパフォーマンス評価の実践-」	FDセミナー	全学で28名、自然科学類3名

４　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数
自然科学類・教育運営委員会	FD関連事項を含む教務・カリキュラム活動についての相談と連絡・調整。 ・新入生の受け入れについての行事等 ・前・後期における、授業・カリキュラムの進行状況と成績の把握、指導方針の相談など。	９回	５名（各専攻委員１名＋委員長１名＋教育推進課２

	・次年度時間割の作成 ・全学の委員会から部局ごとに検討や実施を要請された事項（AP, CP,DP 等のポリシー、研究公正・倫理問題への対応を含む）の相談など。 ・全学的に行われた FD 関連の行事や活動への委員の参加(具体的には、３．の欄に記載の通り)、内容報告と情報の共有など。 ・年度末における１年生の課程配属案の作成。		名）
自然科学類運営会議	教育運営委員長が出席し、FD 関連事項を含む教務・カリキュラム活動についての、全学委員会等の報告、ならびに、理学系研究科・教育運営委員会からの提案と決裁（承認）を行う。	１７回	11 名（各専攻主任１名＋研究科長＋支援室２名＋教育推進課２名）
自然科学類教育運営委員と専門基礎科目担当教員との相談会	自然科学類の１年次における専門基礎科目の担当者と教育運営委員で、課程配属の決定に利用する専門科目の成績評価の標準化、および入学時に受講クラスをクラス分けする再の基準の見直しに関して、忌憚のない意見交換を行った。	１回	９名
自然科学類教育運営委員と１年生担当学生アドバイザー教員との相談会	・3 回の新入生オリエンテーションにおいて、カリキュラムを正しく理解させ、適正な履修申請を行うように指導する為の打ち合わせを行った。 ・前期の終盤（期末試験前）に１年生に対して、期末試験に臨む心がけと、夏休み期間中の抽選科目の申請に関するオリエンテーションを行った。	２回	１０名
各課程の教員会議（教員会議、専攻会議、などの	各課程の教育運営委員と主任が中心となり、全学および研究科の教育運営委	12 回程度（各専攻と	課程毎に異なる

名称を使用）	員会の活動報告と、学生の就学状況（学生異動・成績を含む）などについての情報の把握と共有、時間割など課程内の教務・カリキュラム上の意見調整、等を行っている。	も、ほぼ月例）	が、全教員、もしくは講師以上の教員（生物科学）など。

５　その他取り組みの具体的実施状況

・　自然科学類では、履修すべき科目群を学年毎／学期毎の時間割の形に整理して課程・専攻、のウェブサイトもしくはポータル等で公開し、科目名から各科目のシラバスにリンクをはることにより、科目毎の内容、進度、受講生の理解度等の情報を教員間で共有し、連携をとりつつ教育を行っている。分子科学課程においては、毎月開催される学系教員会議の際に在学生の就学状況を確認し、学生教育に関わる問題意識を所属全教員が共有する機会として活用している。物理科学課程の教員会議、生物科学課程の専攻会議でも、ほぼ同様の取り組みを行っている。

・　また、国内および海外から来訪した研究者のセミナーの機会に、学生に聴講や質疑への参加を促すなどの活動を行ってきた。

・　また、学内の複数部局(生命環境、理学系、看護、リハビリ、21 機構、等)　の協力の下に開催される BiomedicalForum 等の行事にも、学生の参加を促し、発表の聴講や discussion を積極的に行うように指導した。

平成27年度　ＦＤ活動報告　　理学系研究科

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

これまでに行ってきた下記の６項目をH27年度も継続して実施した。

(1) シラバスの整理とウェブ公開
(2) 大学院博士前期課程の講義科目における科目再編成と試験実施の徹底
(3) ゲストプロフェッサーによる特別授業の単位化
(4) 科学英語教育を専門とする教員による特別授業
(5) 学期ごとの単位修得状況の把握と保証人への連絡および学生に対する個別指導の実施
(6) カリキュラム単位での教科書情報の整理／新入生への教科書事前販売（前期必修科目）の実施

上記以外に本年度に行った重要事項としては以下の２項目がある。

(7)各種ポリシー（AP, DP, CP）の見直し並びに原案作成作業
(8)研究倫理に関わる規程や新共通科目についての学内の検討状況の把握と連絡・調整。

２　ピア授業参観実施状況

期間	被参観授業数	参観者数	特記事項
前期			
後期			
年度合計			

３　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数
2015. 5.19	「研究公正の推進と責任ある研究者の養成」 講師：中村征樹　氏	FDセミナー	全学で101名、生命環境11名、理学系12名
2015. 9.2	「あたまの中の評価基準を「みえる化」する方法-ルーブリックを用いたパフォーマンス評価の実践-」	FDセミナー	全学で28名、生命環境４名、理学系３名
2015. 11.4	「研究公正」科目のグループワーク試行実施	授業の試行	全学で院生36名教員９名、生命環境院生５名教員１名、理学系院生５名教員２名

４　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況			
会議・委員会名	内容	回数	委員数
理学系研究科･教育運営委員会	FD 関連事項を含む教務・カリキュラム活動についての相談と連絡・調整。 ・新入生の受け入れについての行事等 ・前・後期における、授業・カリキュラムの進行状況と成績の把握、指導方針の相談など。 ・次年度時間割の作成 ･全学の委員会から部局ごとに検討や実施を要請された事項（AP, CP,DP 等のポリシー、研究公正・倫理問題への対応を含む）の相談など。 ・全学的に行われた FD 関連の行事や活動への委員の参加(具体的には、３．の欄に記載の通り)、内容報告と情報の共有など。	９回	５名（各専攻委員１名＋委員長１名＋教育推進課２名）
理学系研究科･主任会議	必要に応じて、教育運営委員長が出席し、FD 関連事項を含む教務・カリキュラム活動についての、全学委員会等の報告、ならびに、理学系研究科・教育運営委員会からの提案と決裁（承認）を行う。	１７回	11 名（各専攻主任１名＋研究科長＋支援室２名＋教育推進課２名）
各専攻の教員会議(教員会議、専攻会議、などの名称を使用)	各専攻の教育運営委員と主任が中心となり、全学および研究科の教育運営委員会の活動報告と、院生の就学状況（学生異動・成績を含む）などについての情報の把握と共有、時間割など専攻内の教務・カリキュラム上の意見調整、等を行っている。	12 回程度（各専攻とも、ほぼ月例）	専攻毎に異なるが、全教員、もしくは講師以上の教員（生物科学）など。

５　その他取り組みの具体的実施状況

各専攻において、外国人研究者の講演会などは頻繁に行われており、それらの機会を利用して、大学院生に英語のプレゼンテーションの聴講、質疑などに参加させる様に指導を行っている。これらの指導は、サイエンスコミュニケーションや講義など正規授業の一部として実施した場合と、フロンティアセミナーなど授業外の指導として実施した場合の両者を含む。

また、学内の複数部局(生命環境、理学系、看護、リハビリ、21 機構、等)　の協力の下に開催される BiomedicalForum 等の行事にも、大学院生の参加を促し、研究発表や discussion を積極的に行うように指導した。

自然科学類・理学系研究科における教育改革へのとりくみ 2016

これまでに行ってきた下記の６項目を今年度も継続して実施するとともに、その内容、実態、効果を検証し、教育レベルの向上を図っていく予定である。

(1) シラバスの整理とウェブ公開

・ 履修すべき科目群を学年毎／学期毎の時間割の形に整理して課程・学科・専攻ウェブサイトで公開し、科目名から各科目のシラバスにリンクをはる

→ 科目毎の内容、進度、受講生の理解度等の情報を教員間で共有し、連携をとりつつ教育を行う工夫の一つ

(2) 大学院博士前期課程の講義科目における科目再編成と試験実施の徹底

・ 大学院博士前期課程の開講科目を再編して専攻コア科目群を設定するとともに、ほぼ全ての講義科目に学域／学部と同様に試験を行って成績評価を実施

(3) ゲストプロフェッサーによる特別授業の単位化

・ 第一線の研究者を「ゲストプロフェッサー」として国外から毎年招聘し、各々約１ヶ月の滞在期間中に英語による特別授業、研究セミナー、個人及びグループ単位での英語による研究討論を行う科目を設置し、課程／学科、専攻の必修または選択必修科目として単位化している。

→ 研究科長裁量経費により H19 年度よりスタート
H20～22 年度文科省大学院 GP プログラムに採択
プログラム終了後も、独自予算により全学予算分とは別枠で招集を継続中

(4) 科学英語教育を専門とする教員による特別授業

・ 科学英語教育を専門とする教員による特別授業を実施し、課程／学科、専攻の必修科目として単位化している。

→ H20～22 年度文科省大学院 GP プログラムに採択
プログラム終了後も独自予算により継続中

(5) 学期ごとの単位修得状況の把握と保証人への連絡および学生に対する個別指導の実施

・ 在学生の単位修得状況を各学期ごとにチェックするとともに成績を保証人に郵送

・ 問題のある学生については教育運営委員と学生アドバイザーが連動して個別指導を実施

(6) カリキュラム単位での教科書情報の整理／新入生への教科書事前販売（前期必修科目）の実施

・ 教育運営委員、教務 G、生協書籍部が連動し、カリキュラム単位（課程・学類・学科・専攻）毎に使用教科書情報を整理して共有する体制を構築

・ 学類新入生が前期に履修する必修科目の教科書をオリエンテーション時に事前購入して予習する体制を確立

【参考】教育運営委員（長）の FD 委員（長）兼任と多年度継続担当および組織的連携体制の構築

・ 同一人が複数年にわたって連続して教育運営委員（長）と FD 委員（長）とを兼任して担当し、教育推進課教務Ｇの担当スタッフ、課程／学科／専攻主任および各学年の学生アドバイザーと緊密な連携の下に学生指導にあたることで、円滑で継続的な活動を可能としている。

→ 課程・学科・専攻レベルでは、次期委員をあらかじめ決めておき、現委員と協力して活動